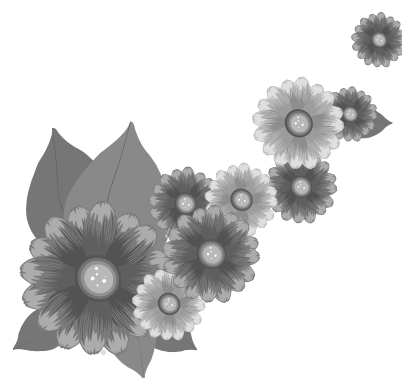


参考資料

1. 平成20～22年度 3年間で保健指導ミーティングを開催した都道府県看護協会
2. 平成22年度 保健指導ミーティングの企画・実施内容
3. 厚生労働省 平成22年度 保健指導支援事業 保健指導ミーティング 募集要項
4. 平成22年度 保健指導支援事業 保健指導ミーティング実施報告書について



※冊子化した「実践に活用できる！保健指導ミーティングの手引き」には掲載されておりません。必要の際は本PDFをご参照ください。

平成20～22年度 3年間で保健指導ミーティングを開催した都道府県看護協会

平成20年度							
開催NO.	都道府県看護協会	保健師職能委員長名	会議名	開催場所	開催日	開催数	参加人数
1	岡山県	山崎悦子	平成20年度保健指導支援事業保健指導ミーティングin岡山	岡山ロイヤルホテル	平成20年11月30日(日) 10:00～16:00	1	53
2	大阪府 <small>(宗業ブロック保健師職能委員会 合同開催: 奈良県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、大阪府)</small>	中野律子	保健指導支援事業保健指導ミーティング(近畿)	大阪府看護協会研修室	平成20年12月13日(土) 10:00～16:30	1	112
3	山梨県	佐野博美	保健指導ミーティングへ改めて保健指導を探究する～	山梨県看護教育研修センター	平成21年1月9日(金) 9:30～16:30	1	100
4	佐賀県	太田幸代	保健指導実践者研修会	佐賀県看護協会看護センター	平成21年1月10日(土) 9:30～15:00	1	54
5	秋田県	近藤長子	特定保健指導グループミーティング実践事業	秋田県総合保健センター ※グループ支援の実践は、 にかほ市	平成21年1月19日(月) 事業報告会 10:30～15:30 ※グループ支援の実践は10月から3月まで	1	49
平成21年度							
1	広島県	佐々木 みち子	広島県保健指導ミーティング (生活習慣病予防活動支援スキルアップ研修)	広島県看護協会	平成21年9月5日(土) 10:00～16:00 平成22年1月23日(土) 10:00～15:00	2	22 32
2	岡山県	長安 つた子	保健師の保健指導を語ろう研修会	岡山県看護会館	平成21年10月31日(土) 13:00～16:00 平成22年1月9日(土) 10:00～16:00	2	49 43
3	徳島県	佐藤 ふさよ	徳島県保健指導ミーティング ～行動変容をめざす 効果的な保健指導～	徳島県看護会館	平成21年11月23日(火) 10:00～12:00	1	39
4	高知県	坂本 喜代子	平成21年度 特定保健指導ミーティングin高知	ホテルサンルート高知	平成21年11月23日(月) 10:00～16:00	1	42
5	鹿児島県	八田 冷子	保健指導ミーティング～特定保健指導1年生。 あれ？を大事に語り合おう、つまずき、ひっかかったことを～	鹿児島県市町村自治会館	平成21年11月28日(土) 13:30～16:30 平成22年1月23日(土) 13:30～16:30	2	33 22
6	石川県	飯田 芳枝	「保健指導」のネットワークをつくらう	金沢都ホテル	平成21年11月29日(日) 13:30～16:30	1	40
7	東京都	斉藤 千賀	保健指導ミーティング～結果の出る保健指導を目指して～	東京都看護協会	平成21年12月5日(土) 13:30～16:30	1	49
8	大分県	高倉 敬子	保健指導にチャレンジ!!	大分県看護研修センター	平成21年12月13日(日) 10:00～16:00	1	74
9	兵庫県	東 美鈴	保健師の力量形成のための保健指導ミーティング	兵庫県看護協会会館	平成21年12月19日(土) 13:00～16:30 平成22年1月23日(土) 13:00～16:30	2	63 43
10	香川県	筒井 知子	保健事業を成功させるための実践力アップ講座	香川県看護協会	平成21年12月19日(土) 10:00～16:00	1	45
11	山梨県	今井 桂子	保健指導ミーティング ～改めて保健指導を探究し、実践力を高める～	山梨県看護協会看護教育 センター	平成22年1月7日(木) 9:30～16:00	1	77
12	大阪府	中野 律子	保健指導ミーティング	大阪府看護協会	平成22年1月9日(土) 10:00～16:00	1	18
13	茨城県	森田 正子	効果的な保健指導を行うためのスキルアップ	茨城県立健康プラザ	平成22年1月29日(金) 10:00～15:30	1	69

平成22年度							
開催NO.	都道府県看護協会	保健師職能委員長名	会議名	開催場所	開催日	開催数	参加人数
1	奈良県	有基みや子	保健指導ミーティング	奈良県看護研修センター	平成22年10月26日(火) 13:30～17:00 平成23年1月17日(月) 13:30～17:00	2	44 45
2	香川県	筒井知子	一緒に仲間と話してみませんか！ 保健指導ミーティング	(社)香川県看護協会 看護研修センター	平成22年11月6日(土) 10:00～15:30	1	24
3	愛媛県	河野恵子	平成22年度 保健指導支援事業保健指導ミーティング	愛媛看護研修センター	平成22年11月6日(土) 9:30～15:00 平成22年12月11日(土) 13:00～16:30	2	39 48
4	茨城県	森田正子	効果的な保健指導を行うためのスキルアップ ー保健指導の連携を考えるー	茨城県立健康プラザ	平成22年11月10日(土) 10:00～15:30	1	36
5	岡山県	長安つた子	岡山県の保健師のための保健指導ミーティング	岡山県看護協会	平成22年11月13日(土) 10:00～16:00	1	37
6	千葉県	田中あや子	保健指導支援事業 ー保健指導ミーティングー	千葉県看護協会 大会議室	平成22年11月15日(水) 9:30～16:30	1	58
7	徳島県	佐藤ふさよ	行動変容をめざす 効果的な保健指導実践事業	徳島県看護会館	平成22年11月23日(火) 10:00～12:00	1	18
8	島根県	上村博子	保健指導ミーティング	松江市総合保健センター	平成22年11月26日(金) 13:00～16:30	1	35
9	石川県	飯田芳枝	石川県保健指導ミーティング事業	金沢国際ホテル	平成22年11月27日(土) 13:30～16:30	1	58
10	高知県	坂本喜代子	気づきを促す保健指導を学ぼう	高知県看護協会会館	平成22年11月27日(土) 10:00～15:30	1	44
11	沖縄県	阿波連由美子	ネットワークで保健指導のスキルアップを図ろう	沖縄県看護研修センター	平成22年12月4日(土) 9:30～16:30	1	44
12	福井県	長谷川まゆみ	保健師のための保健指導ミーティング ～自らの力量形成と行動変容のために～	福井県看護協会	平成22年12月4日(土) 13:00～16:00	1	76
13	長崎県	南 裕美	今一度振り返ってみよう！ 保健指導の実践を！	長崎県看護センター	平成22年12月5日(日) 10:00～15:30	1	35
14	山梨県	嶋崎信子	保健指導ミーティング ～納得できる保健指導を探求し、実践力を高める～	山梨県看護教育研修センター	平成22年12月7日(火) 9:30～16:00	1	48
15	大分県	高倉敬子	大分県保健指導ミーティング	大分県看護研修センター	平成22年12月11日(土) 10:00～16:00	1	84
16	新潟県	藤原洋子	平成22年度新潟県保健指導ミーティング ～保健指導の質の向上を目指して語ろう！ まず保健師自身が行動変容～	(社)新潟県看護協会	平成22年12月15日(水) 10:00～16:00	1	58
17	兵庫県	神坂百合子	保健指導支援事業保健指導ミーティング事業	兵庫県看護協会	平成22年12月18日(土) 13:30～16:30	1	70
18	山口県	伊藤悦子	保健指導ミーティング ～地域で糖尿病とともに生きる～	山口県周南総合庁舎さくらホール	平成23年1月8日(土) 13:30～16:30	1	78
19	神奈川県	佐藤弘美	平成22年度保健指導支援事業保健指導ミーティング	神奈川県看護協会 (神奈川県総合医療会館)	平成23年1月14日(金) 10:00～16:30	1	73
20	宮崎県	山内裕子	保健指導ミーティング	宮崎県総合保健センター	平成23年1月15日(土) 13:00～16:30	1	67
21	静岡県	平井弘美	糖尿病予防保健指導ミーティング	静岡県看護協会研修室	平成23年1月22日(土) 10:00～16:00	1	71
22	鹿児島県	八田冷子	保健指導ミーティング	徳之島生涯学習センター	平成23年1月22日(土) 10:00～15:30	1	23

平成22年度 保健指導ミーティングの企画・実施内容

		1
都道府県		茨城県
継続年数		2
開催場所		茨城県立健康プラザ
開催日		H22年11月10日 36名 参加者22名 スタッフ14名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	
	教育	
参加人数(予定)		100
実行委員会等の設置		実行委員会 (講師、実践事例発表者、協働企画者、ファシリテータ)
目的		特定保健指導を実施している保健師を対象に、保健師のスキルアップとネットワークの構築を目指す。 ①保健指導のスキルアップは、保健師の資質向上につながる(自らの保健指導を語り、自分の実践を意識化し、自分の行動や考えに気づく契機となる) ②保健師間のネットワークの強化
目標		①各所属で実施している特定保健指導の課題について、参加者自身が課題の分析、保健指導の振り返りができ、課題解決のためのスキルアップが図れる。 ②グループ討議のなかで、他機関との意見交換を行い、相互に連携がとれるようにネットワークの強化を図れる。
企画の背景		平成21年度、保健師のスキルアップをテーマに保健指導ミーティングを開催したが、参加者に主旨が充分伝わらなかった反省が残った。 その反省を踏まえ、今年度は保健指導のスキルアップと資質向上及びグループ討議を通じたネットワークの構築を図る内容とした。 ①保健指導のスキルアップの継続的な研修の場の位置づけとして企画をする。 ②スキルアップの評価についても実施していきたい。
プログラム	場の組み立て	終日開催 テーマ「保健指導のスキルアップとネットワークの構築」 ①あいさつ ねらいの説明 ②実践事例発表1③グループ討議1④全体発表・まとめ1 ⑤実践事例発表2⑥グループ討議2⑦全体発表・まとめ2 ⑧講義「保健師のおこなう保健指導とは」講師 つくば国際大学地域看護学 准教授 野原真理 ⑨グループ討議3 ⑩全体発表・まとめ3 ⑪アンケート
	実践事例発表内容 <small>※下線はモデル事業者</small>	実践事例数2例/各事例を2回に分けて、/各報告15～20分で行う グループ討議の呼び水となるための話題提供 実践事例発表1 ①協会けんぽ: 個別指導を目指すもの ②行方市: 保健指導の実際、JNAグループ支援モデル事業の紹介、参加者の反応、教材の紹介 実践事例発表2 ①協会けんぽ: 同行訪問による人材育成 ②行方市: 支援を受けた人の変化・支援方法の検証/ 地域・職場のモチベーションが向上した事例
グループ討議		①グループ討議1(40分) ねらい:所属が行っている保健指導についての情報交換、保健指導の状況を意識し、ネットワークを図る テーマ:「自己紹介」及び 「実施している保健指導の紹介」 参加者の反応、教材の紹介 ②グループ討議2(40分) ねらい:参加者自身の保健指導の振り返りができる テーマ:「保健指導の振り返り」 普段どのように振り返りをしているか ③グループ討議3(40分) ねらい:自分が今後取り組もうとすることを確認 テーマ:「これからの保健指導」 「すぐ取り組めること、今後やっていかなければならないこと」 グループ討議のまとめとして、全体発表の時間を持ち、各グループ討議の際に波及したい意見をもつ参加者から、報告をしてもらった。 1グループ8～9人 4グループ編成 ファシリテータ:モデル事業者、職能委員 記録:職能委員

		2
都道府県		千葉県
継続年数		1
開催場所		千葉県看護協会大会議室
開催日		H22年11月15日 58名 参加者50名 スタッフ8名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		100
実行委員会等の設置		
目的		特定保健指導の現状や課題を探り、参加者が実施している保健指導について検討・情報交換を行い保健指導の質の向上を図る
目標		参加者が自ら実践している保健指導の方法を客観的に評価し、より具体的な保健指導を考えることができる。
企画の背景		特定健診・特定保健指導が開始され、保健師が実施する生活習慣病予防の保健指導の効果が課題となっている。 そこで、保健師の専門性を発揮した効果的な保健指導を実施することができるよう、スキルアップおよび保健指導の質の向上を図る機会とする。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①実践事例発表 ②グループ討議 ③全体討議 ④講演 グループ討議の助言を含めて、「行動変容ができる保健指導」のあり方について講演 講 師 千葉大学大学院看護研究科 教授 宮崎美砂子 ⑤アンケート記入
	実践事例 発表内容	保健師の行う保健指導の実際—行動変容に結びつける— 先駆的な事例の紹介 実践事例数3例(全体で140分) ①船橋市国民健康保険課特定健康診査室 ②佐倉市健康管理センター ③茨城県行方市玉造保健センター(H21年度先駆的保健活動交流推進事業参加のモデル事業者)
※下線は モデル事業者		
グループ討議		グループ討議(60分) グループは参加者の連携が図れるよう所属が偏らないよう配慮する。 1グループはグループ員の顔が見え、活発な討議ができる7~8人体制とする。 実践事例発表者をグループに加える。 スーパーバイザーを講師に依頼しグループ討議の助言を依頼。 ①自己紹介 自分が行っている保健指導の実際を紹介。 ②実践事例を聞いて、気づきや今行き詰っていることを討議する。 ファシリテータ:職能委員 発表:参加者 記録:参加者

		3
都道府県		神奈川県
継続年数		1
開催場所		神奈川県看護協会(神奈川県総合医療会館)
開催日		H23年1月14日 73名 参加者55名 スタッフ18名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		
目的		様々な地域や領域で活動する保健師の保健指導実施者としてのスキルアップを目的とする。
目標		① 実践事例を通して自らの保健指導を振り返ることができる。 ② 地域や領域の違いによる保健指導について知ることができる。
企画の背景		保健師職能委員会では、平成19年度から医療制度改革に伴う特定健診・特定保健指導について研修会や講演会を実施してきた。平成21年3月には様々な領域の保健師により、その特定保健指導の現状について情報交換を行い見えてきた課題を共有した。職能委員会の予想以上に多くの参加者があり、関心の高さや現場での戸惑いの大きさを実感した。今回は、実践事例を通して自らの保健指導の実践活動を振り返ることができる場を設定し、個々の保健師の力量向上に取組みたい。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①オリエンテーション 委員長あいさつ:開催の趣旨と研修のねらいの説明 ②実践事例発表3例 ③グループ討議1(自己紹介・感想) ④講義: 県立医療福祉大学准教授 渡部月子 ⑤グループ討議2(共感・気づき・課題、課題のカテゴリー化・タイトルをつける、課題への取り組み) ⑥グループ発表と全体討議 ⑦まとめ ⑧アンケート記載 終了
	実践事例発表内容	実践事例発表3例 (発表時間1事例20分) ①特定保健指導の評価と課題 山北町健康づくり課 積極的支援の成功例と失敗例を振り返る ②地域福祉保健計画を通した健康づくり活動を生み出す取り組み 横浜市青葉区福祉保健センター 地域に出る機会の少なくなった中で、行政計画に事業を位置づけ健康づくり(生活習慣病予防)につながる具体的な働きかけを行う ③保健指導の品質管理にどのように取り組むか(財)神奈川県予防医学協会健康創造室相談課 品質管理システムの導入による個別健康支援プログラム研修と業務評価チェックシートの活用
グループ討議		○グループ討議1(午前に30分) 自己紹介をしながら、3事例の発表を聞いて自分の感想を自由に述べる 7グループ(6から9人/G)に職能委員がファシリテータとして各グループに入る ○講義(コーディネータ)神奈川県立保健福祉大学 渡部月子(午後60分) 「生活習慣病予防活動における保健師の力量形成から品質管理へ」 ○グループ討議2(午後90分) 講義を聴いて ①共感したこと、気づいたこと、業務などに生かせること、改善できるようなことを出し合いピンクのふせんに記録する。課題として整理していく。 ②出された課題をカテゴリー別にまとめ、タイトルをつける。黄色のふせんを使用。 ③課題に対する解決策を検討する。水色のふせんを使用。(グループ内で選んだいくつかの課題について検討) ○発表と全体討議 模造紙上に作成したグループ討議の内容を3分で発表する(30分) ○まとめ

		4
都道府県		新潟県
継続年数		1
開催場所		(社)新潟県看護協会
開催日		H22年12月15日 58名 参加者42名 スタッフ16名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	
	教育	
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		県看護協会教育担当理事・県主管課保健師・産業領域の保健師に理解と協力を得る
目的		①保健師が行った保健指導について、現場での困難や手ごたえ等を共有し、自ら行った保健指導を振り返ることにより、保健指導実践者としてのスキルアップと保健指導の質の向上を図る。 ②保健指導実践者が、活動分野を超えて出会う機会を提供し、交流を深めることにより、保健師間の連携やネットワークを作っていくことを目指す。
目標		①参加者が、自分の実施した保健指導の体験を語り、聴き、保健指導実践者としての気づきを得ながら、効果的な保健指導のあり方について考えることができる。 ②各領域で実施されている保健指導を理解し、各機関が連携できる保健指導のあり方を検討できる。 ③保健師の年齢や活動領域を超えたネットワークづくりの足がかりとする。
企画の背景		これまでの研修会において、コーチングや行動変容をテーマにした講演が多く実施されたことにより知識が深まってきている。しかし、その一方で保健指導するにも人が集まらない、保健指導を当事者にどうお知らせしたらよいか、それを成功させるためにはどうしたらよいかというような悩みが聞かれていた。そこで、保健師が企画力を養って効果的な保健指導を行うためには、まず保健指導を行っている保健師自身が、保健指導のプロセスをとおして、自らの実践を振り返り保健指導の力量を高め合う場が必要であると考えた。また、産業領域等で働く保健師と行政領域で働く保健師のつながりを持つ必要性についても以前から認識していたので、この機会を捉えて所属を超えて語り合える場を設定したいと考えた。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①研修会の主旨説明、オリエンテーション ②実践事例発表 ③講義「特定保健指導の質の管理・評価」群馬大学医学部保健学科看護学専攻教授 佐藤由美 ④グループ討議1(演習1) ⑤グループ討議2(演習2) ⑥全体発表 ⑦発表を通しての助言及び質疑応答 ⑧アンケート記入
	実践事例発表内容	実践事例発表 3例(発表時間1例20分) ①市町村における特定保健指導への取り組み 三条市役所 保健師 ②健診機関での保健指導の取り組み 財団法人新潟県保健衛生センター 産業看護師 ③事業所保健師からの実践報告(株)パナソニック電工株式会社新潟工業健康管理室 保健師
グループ討議		テーマ:自分自身の保健指導技術を高める ねらい: ①効果があったと思われる保健指導事例の振り返りから、保健指導実施者自身の保健指導技術や傾向を見直し、評価する ②効果的な保健指導技術について検討し、保健指導技術を高めるために保健指導実施者自身の資質向上対策や組織としての事業改善の方法について、グループ討議を通して学ぶ 配慮点:グループ討議内容について説明 ①グループメンバーは、同年代の人で構成し活動領域が偏らないように設定。 ②グループメンバーの人数は、7~8人/G程度とする。 ③保健師職能委員がファシリテータとして各グループに入る。 グループ討議1(演習1)説明10分+60分 事前課題について発表する 質疑合わせて1人10分。内容は自分の保健指導に焦点を置き、保健指導技術6項目(産業医科大学作成「保健指導サービスの質の管理ツール集:保健指導実施者の行動目標」)に照らして、成果をもたらした要因を語る。 グループ討議2(演習2)20分+10分休憩+30分 振り返りからの気づきの整理 ①記録用紙1をもとに「対象者に効果をもたらす保健指導の技術とはどういうものか」を討議し、さらに高めるべき技術には何があるか明らかにする(20分) ②保健指導の技術を高めるために自分自身ができること、職場で取り組めそうなことを討議(30分)

		5
都道府県		山梨県
継続年数		3
開催場所		山梨県看護教育研修センター
開催日		H22年12月 7日 48名 参加者29名 スタッフ19名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		実行委員会 (県行政関係者、産業関係者)
目的		各領域で活動する保健師が保健指導実施者として実践を振り返り、保健指導の質の向上を目指す。
目標		① 一人一人が自身の保健指導の強み・弱みに気づくことができる。 ② 対象に合った保健指導を見極め、納得できる保健指導のあり方を認識できる。 ③ 各領域の保健指導に関わる保健師同士が、顔の見える関係づくりを意識し推進できる。
企画の背景		過去2回の実施から、昨年の方法を一步深め、今年は保健指導ミーティングを通して効果的な保健指導、(相手を知り、相手を探り、短期間で納得して自己決定する保健指導のあり方)に気づき、「私元気であなたも元気！私変わってあなたも変わる！」をめざし、「保健師みんなで語り合い、実力をつけよう。また、保健師のネットワークを深めよう」と企画した。
プログラム	場の組み立て	終日開催 テーマ「私たちの知見を集めよう！仲間から学びあう保健指導の技」 ①講義「納得できる保健指導」 講師 山梨大学大学院医学工学総合研究部 山崎教授 ②グループ討議1 ③全体発表 ④グループ討議2(ロールプレイ) ⑤グループ討議2のまとめ ⑥ロールプレイの様子、学びを発表 ⑦まとめ・助言
	実践事例発表内容	参加者全員が実践事例を持ち寄る
グループ討議		グループ討議1(120分) ①効果のあった保健指導を話し合う グループ討議2(ロールプレイ)(80分) ①事例を選定し、効果的と思われる保健指導場面・その方法を実践する ②個々の課題に気づき、目指す姿(保健指導)を明らかにする 実行委員がファシリテータを実施

		6
都道府県		石川県
継続年数		2
開催場所		金沢国際ホテル
開催日		H22年11月27日 58名 参加者45名 スタッフ13名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		保健指導ミーティング検討委員会の設置
目的		昨年度は、市町村・県の行政機関や産業(職域)分野の検診機関の民間機関及び医療機関といった様々な領域で活動している保健師のヒューマンネットワークづくりを目的に、保健指導ミーティングを実施した。その結果、保健指導を実施している関係機関の実施内容をお互いに理解することができた。今年度は、各関係機関で保健指導を実施する保健師の力量を高めるため、具体的な保健指導を要する事例から、講義・グループ討議を通じ保健指導の視点・内容を中心に研修を実施する。併せて、協会のPRも行い、新規加入を促進することも目的とする。
目標		①保健指導を実施するための教材について学び、教材の必要性を理解し、保健師が作成した教材を共有する。 ②対象者の生活を把握した健康問題を経時的に捉え、対象者自身が自ら健康課題に取り組める保健指導のあり方について、実践事例から学び、保健指導の力量を高める。 ③各自が実践している保健指導のあり方について検討し、実践と評価を繰り返す場を提供する。
企画の背景		昨年度当保健指導ミーティングを実施したことにより、各分野で働く保健師の保健指導状況をお互いに理解でき、保健師間の顔の見える連携の第一歩の場となった。 そこで今年度は、的確な保健指導を実施するため、保健師自身が、事例の生活やその背景を捉えた保健指導の内容を検討し、保健指導のスキルアップを図り、関係機関が連携できる保健指導のあり方について学ぶ場とする。
プログラム	場の組み立て	午後開催 ①開会挨拶・主催者側より趣旨説明 ②講演 保健師の力量形成のために～保健指導とは～ 講師:元ブリヂストン磐田工場 保健師 ③実践事例発表 保健指導の力量形成を図るために 座長 能美市健康増進課 保健師 ④グループ討議 助言者 元ブリヂストン磐田工場 保健師 県健康増進課 保健師
	実践事例発表内容	実践事例数2例 (発表時間1人25分) 保健指導の力量形成を図るために ①保健指導のための教材作成 野々市町 保健師 ②先駆的保健活動交流推進事業実践結果から 七尾市 保健師
※下線はモデル事業者		
グループ討議		実践事例から見直そう・保健師の力量を高めるために～保健指導とは～ 7グループ (45分) 総合司会 石川中央保健センター 保健師 ①自己紹介 ②特別講演や実践報告を伺ったの感想 ③自分の保健指導を実施してみたの手ごたえや評価など まとめ 全体発表

		7
都道府県		福井県
継続年数		1
開催場所		福井県看護協会
開催日		H22年12月4日 76名 参加者60名 スタッフ16名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		80
実行委員会等の設置		
目的		保健指導を業とする保健師のために、地域や領域の異なる保健師の保健指導実践事例を通して、自らの実践を客観的に振り返り、効果的な保健指導実践のための力量形成と行動変容に向けた自己効力感を高める。 また、多様な領域で活動する保健師の交流によりネットワークの強化を図る。
目標		①地域や領域の異なる保健師の実践事例を知り、自らの実践の自己評価について語ることができる。 ②明日からの自らの保健指導のあり方をイメージできる。 ③自らが実践できる保健指導の方法・手法を描ける ④多様な領域の保健指導者の交流によりネットワークの必要性が実感できる
企画の背景		県内では活動領域の異なる保健師が保健指導をテーマに交流し、スキルアップを図る機会が少なかった。本事業である保健指導ミーティングの実施により、それぞれが実践事例を踏まえ、情報交換を行い、語りあうことで専門職としての力量を高めることは、職能集団としての高度専門技能を維持・育成・発展するために不可欠であると考えた。
プログラム	場の組み立て	午後開催 【第1部 実践事例発表】 テーマ「その人が健康問題に気付き、解決に取り組むための保健指導の実践と秘策」 コーディネータ 福井大学医学部看護学科地域看護学講師 北出順子 ①講演 テーマ:「保健指導の振り返りと気付き」～ケースカンファレンスから見てきた対応方法の共有～ 講師:東京海上日動メディカルサービス株式会社 健康プロモーション事業部健康デザイン室課長代理 長田恵 ②実践事例発表 【第2部 パワーUPミーティング】 ③グループ討議 テーマ:『保健指導の転換を目指して「振り返る」・「語る」・「描く」』全体発表 ④まとめ テーマ「指導」しない保健指導～ヒトゴトからジブンゴトへの転換にむけて～ 上記コーディネータ 北出氏
	実践事例発表内容	実践事例発表3例 (発表時間各20分) ①保健指導受託機関の立場から 財団法人 福井県予防医学協会 保健師 ②産業保健の立場から パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社 保健師 ③行政の立場から 高浜町保健課 保健師
グループ討議		【ステップ1:実践事例発表から自分の保健指導を「振り返る」・「語る」】 ①自己紹介と実践事例発表を聞いた感想「まず一言」とその理由 ・自己紹介に時間を取られないよう、自分と保健指導業務にかかる自己紹介となるように(職場背景などは最小限に)、口添える ・自分の保健指導業務の立ち位置と関連して実践事例発表の感想があると思うので、詳しい感想ではなく「まず一言」としての言葉を発していただき、その理由は何かを簡潔に語ってもらう ②①の感想を受けて自らの実践を振り返って自己評価についての意見交換と共有 ・全員が保健指導の自己評価について語り、相互に保健指導の現状の捉え方を知り意見交換をする。 ③全体としてでた意見のまとめ・・・(記録) 【ステップ2:自分ができる「描く」効果的な保健指導とは、自分は明日からどうする】 ①実践事例発表から学んだことなどを踏まえて明日からの自分の保健指導のあり方、 転換しようと描く姿について意見交換 ②①を実践するために、自分の具体的方法やとるべき行動について意見交換 ・1人の強い意見に引っ張られていたり、否定的な意見にならないよう ・各自が明日からの自分の姿をイメージして話すことが必要 ・お互いにイメージした姿が、具体的に実践できるように提案し合う ③全体としてでた意見のまとめ・・・(記録) 【ステップ3:自分が実践できていくために必要な体制やネットワークづくりを「考える」】 ①職場での体制づくりについて思うこと ②職種間、多様な職種、職域を超えた関係づくりについて思うこと ・ステップ2ですでに意見として含まれていないか確認しておく ・持ち帰って今後職場として取組みたいことや考えたいことを語り合う ・今回のような取組の意義についても意見交換できたらいい ③全体としてでた意見のまとめ・・・(記録) 【まとめ:ステップ1・2・3を通して明日からの意気込み、グループ全体の総括】 ①ステップ1・2・3を通して、明日からの意気込みを各自述べて、グループ全体の総括をして終了 ②記録の確認

		8
都道府県		静岡県
継続年数		1
開催場所		静岡県看護協会研修室
開催日		H23年1月22日 71名 参加者 56名 スタッフ 15名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	
	教育	
参加人数(予定)		70
実行委員会等の設置		必要に応じて県主管課等の参加を依頼
目的		自発的な行動変容を目指し、糖尿病予防の保健指導のあり方を探る。
目標		①事例を通して自らの保健指導を振り返る。 ②日頃の事例を言語化する事により、新たな課題や対策に気づく。 ③地域や所属を超えた情報交換やネットワークづくりの場となる。
企画の背景		メタボを含む特定保健指導に取り組んでいるが、参加者が少ない状況である。特に血糖値への関心が低く(医療機関等の指導にもよる)重症化するケースも多い。今回は、生活習慣病の代表といえる「糖尿病予防の保健指導」に視点を置き、学びたい。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①講演「最新の糖尿病治療と生活指導」 静岡県立総合病院糖尿病・内分泌代謝センター部長 井上達秀 ②グループ討議 ③実践事例発表 ④グループ討議 ⑤全体発表 ⑥講評及び助言(アンケートの実施)
	実践事例発表内容	実践事例数1例(発表時間30分) テーマ「糖尿病保健指導の実際」浜松ホトニクス 保健師 ①25歳の男性社員(独身)の過去5年間の記録(データと保健指導等の提示) ②ケースの関心・改善が見込まれる一点に絞っての支援。(体重の変化に注目) ③会社の上司を巻きこんで、受診の勧奨。 ④会社の自販機(飲料水)の内容の点検。(糖分の低いものに変更) ⑤社員食堂の「ヘルシーランチ」を利用させ、食事内容のチェックをする。 ⑥昼休みのウォーキングに、何気なく付き合う。(話すチャンスを捉えるため。) ⑦社内会議で報告し、様々な方法で社内全体の健康意識を高めるための働きかけをする。 ⑧地域の食生活の特徴と問題点の分析。(地域への働きかけ)
グループ討議		グループ討議時間(150分) 昼休みを利用し、浜松ホトニクスからの事例の読み取り及び下記の3点について考えてほしいことを伝える ①データから、どのような状況が考えられるか、個々に読み取る ②予測される生活状況を考える ③自分だったらどこにポイントをおいて保健指導を展開していくか、考える グループ討議1 配布された事例を読み取り、自分だったらどこにポイントをおいて保健指導を展開していくのかグループ内でお互いの意見を出し合う グループ討議2 事例報告からの気づき、共感したこと、自分自身のかかわりの振り返りや反省、今後の保健指導に生かしていきたい点などグループ内で話し合う。 グループ討議の発表とまとめ ①職種は異なるが、保健指導の原点に触れたような気がした。 ②ケースに寄り添うような保健指導。…自分の振り返りとなり、反省する点が多い。 ③ケースを通して、医療機関、職場や地域の連携の大切さを改めて感じた。

		9
都道府県		兵庫県
継続年数		3
開催場所		兵庫県看護協会
開催日		H22年12月18日 70名 参加者53名 スタッフ17名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		実行委員会 (県健康増進課生活習慣病予防対策係)
目的		生活習慣病予防対策において、保健師が行う保健指導を効果的に実践するために、保健師自身が自らの指導パターンについて、認識を深めることが大切である。自分の保健指導をオープンに語り合い、自らが陥りがちな保健指導内容を意識化する。住民の思いや気づきを引き出し、住民自身が問題を自覚できることに主眼をおいた保健指導の修得を目的に保健指導ミーティングを実施する。 また、行政、産業及び医療分野で働く保健師が領域を越えて、専門職としてのネットワークを構築していく。
目標		①自らの保健師自身の陥りやすい指導パターンを振り返り、認識を深める。 ②住民の思いや気づきを促す保健指導を理解し、住民自身が問題に気づく保健指導が実践ができる。 ③行政、産業及び医療分野で働く保健師の勤務環境や実態を共有しながら、領域を越えて保健師として協調する。
企画の背景		平成21年度に、「等身大で語り合おう」というテーマで保健指導ミーティング事業を実施した。行政保健師以外事業所や医療機関で働く若い保健師の参加者も多く、自らの保健指導を認め語り合う場を設ける事ができ、ネットワークも広がった。今年度は、地域保健分野と産業、医療機関とのネットワークを充実させるとともに、専門職としての行動変容にかかる力量を向上させたい。
プログラム	場の組み立て	午後開催 ① オリエンテーション、主旨説明 ② 実践事例報告 ③ グループ討議1 ④ グループ討議2 ⑤ 全体発表 ⑥ 講演会・全体発表の助言 内容:「保健師が行う保健指導とは」 講師:滋賀医科大学看護学科 地域生活看護学講座 講師 藤井 広美 ⑦ まとめ 全体発表及び講演を聞いて、今後にむけての自分の内的変化をみつめる。
	実践事例発表内容	実践事例数2例(1人30分) ①ワールド健康保険組合 ●健康保険組合の特定健診・保健指導について ●個別支援事例への保健指導 ●スーパーバイズによる勉強会の開催 ②淡路市 ●淡路市の特定保健事業と日本看護協会モデル事業の導入 ●モデル事業の取組みによる保健指導の変化と参加者の変化 ●スタッフ間の打合せの変化 ※兵庫県保健師職能委員のねらい ●対象者の気づきと心の動きを大切にす保健指導に注目する ●勉強会、スタッフミーティングの持ち方
※下線はモデル事業者		
グループ討議		「日頃の保健指導を振り返ろう」 ①聴いて気づく ワールド健保、淡路市、それぞれの実践報告を聴いて、良かった点、すばらしかった点、興味深いと思った点、何でよかったのか、どこが共感できたのか、できなかったのかなど ②語って気づく ・保健師自身の日頃の保健指導を語る ・保健指導の目的を考える ・保健指導を振り返り、評価をどのようにしているのか、こんなことならできるのではないかと、また、スタッフ全員でできる事は何か等 ※ねらい ・①実践②自分の保健指導をオープンに語り合い、知識偏重の保健指導になっていないか等指導を振り返る ・失敗事例を「ふん、ふん」と聴く ・同じ困難を抱えていることを共感して聴く

		10
都道府県		奈良県
継続年数		1
開催場所		奈良県看護研修センター
開催日		H22年10月26日 44名 参加者33名 スタッフ11名 H23年1月17日 45名 参加者36名 スタッフ9名
開催数		2
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉 教育	
参加人数(予定)		30
実行委員会等の設置		奈良県医療政策部保健予防課との共同事業
目的		生活習慣病予防の中心的な役割を担う保健師は、人々の生涯を通じた総合的な健康づくりの取り組みの基盤整備や事業の施策化が求められている。また、特定健診が開始されるなかで、特定保健指導の効果的な実施が望まれている。そのためには、常に保健師はスキルアップを図り、対象のニーズに対応しなければならない。 そこで、保健指導に携わる保健師等のスキルアップと保健指導に関わる職員間のネットワークの構築を図ることを目的とする。
目標		①実践事例の報告を通して、自己の事業展開を振り返ることが出来る。 ②グループ討議等で、具体的な気づきの場となり、地域や領域の異なる保健指導実施者との意見交換を通して、保健指導のスキルアップを図る。グループ討議では、事前の資料を元に、自らの保健指導のパターンや媒体等展開の工夫点を学び、今後の業務に活用できる。 ③今回の参加者が、保健師等の情報交換等により、ネットワークを構築することが出来、今後の活動に繋げることが出来る。 ④保健指導ミーティングに参加することで、自己の保健指導を実践報告ができ、所属における力量アップへの貢献や関係者とのネットワークに活用できる
企画の背景		コンサルテーション事業を2年間継続して、県内市町村が取り組むことになった。これが、個別のスキルアップに留めることなく、県内全体で共有する場を確保する。そのことにより、参加者の活動ネットワーク化を図る機会となり活動基盤の拡充に繋げたい。また、現在保健所、市町村保健師とも看護協会の事業に関心がなく、会員数もなかなか増加が図れない状況である。本事業に取り組むことで、看護協会活動や保健師職能委員会活動に対する理解を得て会員確保に繋げたい。
プログラム	場の組み立て	午後開催 1. 第1回保健指導ミーティング 開催日時:平成22年10月26日:午後1時30分～5時 ①実践事例発表 ②グループ討議 ③講評・まとめ 講師 大阪府健康科学センター 山野賢子 午後開催 2. 第2回保健指導ミーティング 開催日時:平成23年1月17日:午後1時30分～5時 ①実践事例発表 ②グループ討議 ③講義「保健指導のスキルアップ ―発想の転換を試してみよう―」 講師 大阪府健康科学センター 山野賢子 ④講評・まとめ 以上は、白鳳短期大学地域看護学専攻 清水多實子教授にコーディネータとして、本事業の指導を担当していただく。
	実践事例発表内容	1. 第1回保健指導ミーティング<実践事例数4例> ①市町村の立場から (特定保健指導の取り組み/御所市:保健課 保健師)、(明日香村:健康づくり課 保健師) ②産業保健の立場から (奈良県社会保険病院 健康管理センター/看護局 保健師) ③県の立場から (奈良県健康づくり推進課 保健師) 2. 第2回保健指導ミーティング<実践事例数2例> ①保健師活動強化コンサルテーション事業の実践報告 平成21年度の取り組み報告 (天理市:特定保健指導の取り組み/保険医療課 保健師) ②平成22年度の取り組み報告 (奈良市 :特定保健指導の取り組み/奈良市保健所 健康増進課 保健師)
※下線は モデル事業者		
グループ討議		1. 第1回保健指導ミーティング テーマ「実践報告からの気づき」 参加者同士の意見交換 ①実践事例発表を聞いて良かった点や素晴らしい点、興味深いと思った点を各自意見を発言 ②普段の自分を振り返って 自分の保健指導や保健指導の振り返りをどのように行っているか各自発言 ③今後取り組む保健指導について 自分で、今すぐに取り組むこと、すぐには無理だけど大事なことで、今後取り組んでいきたいこと 2. 第2回保健指導ミーティング テーマ「実践報告からの気づき」 参加者同士の意見交換 ①実践事例発表者の発表を聴きながら、参加者が1事例ごとにふせんに記入する ・気づいたこと ・学べたこと ②自分が保健指導した時の思いを振り返り、悩んだこと、困ったこと、分かったことを話し合う ③この実践事例で、自分だったらこうするといふことがあれば発言する ④領域や所属をこえ、情報交換や共有を図る ⑤保健師が行う保健指導が行動変容に繋がる要因を考察する ⑥情報発信や保健師のネットワーク等、保健活動スキルアップの機会とする

		11
都道府県		島根県
継続年数		1
開催場所		松江市総合保健センター
開催日		H22年11月26日 35名 参加者24名 スタッフ11名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		松江市と共催
目的		保健指導における保健師の力量形成を目的とした実践事例検討会を行う。
目標		実際に行った保健指導事例を元に、地域や領域の異なる保健指導実施者との意見交換を通して自らの実践を振り返る。保健指導の資質向上をめざす ①日本看護協会のモデル事業を実施した松江市の保健指導を学ぶことで、他領域に働く保健師が自らの実践を振り返ることにつながる ②県内に働く保健師が意見交換することで、ネットワークを形成することができる ③ラベルを活用した意見交換により、保健指導を可視化することで自らの実践を振り返ることにつながる ④保健指導を可視化することで先輩から後輩へ保健指導の知恵が継承できる
企画の背景		平成21年度に、「保健指導の在り方」というテーマで県内保健師職能研修会を開催した。日本看護協会常任理事より、日本看護協会モデル保健指導事業を学ぶことで、保健指導ミーティングへの期待が広がった。今年度は、地域保健分野と産業、医療機関とのネットワークを充実させるとともに、専門職としての行動変容にかかる力量を向上させたいと企画した。また実施にあたっては平成19年度のモデル事業実施市からの協力を得た。
プログラム	場の組み立て	午後開催 ①実践事例発表 座長 浜田保健所 健康福祉部長 永江尚美 実践発表2例 ②グループ討議 進行: 島根県立大学短期大学部 教授 吾郷美奈恵 ③全体発表 ④まとめ 浜田保健所 健康福祉部長 永江尚美
	実践事例発表内容	実践事例数2例 (発表時間1人15分) ①松江市役所 保健師: 平成平成19年度日本看護協会モデル事業を行った市による平成22年度の取り組み紹介 ②公立雲南総合病院 保健師 事業所健診受診者の働きざかりの特定保健指導を考える
※下線はモデル事業者		
グループ討議		グループ討議: 120分 ファシリテータ: 保健師職能委員 テーマ: 「保健師がめざす保健指導とは」というテーマ グループ: 1グループ6~7人(県・市町村保健師、産業保健師、病院保健師、大学 職員、その他所属が偏らないよう工夫)5グループ 内容: 保健指導を推進する上での日ごろの思いや狙いをラベルワーク手法を使いことばにし、意見交換から明らかにする(可視化)を試みた。 ラベルワークとは ①実践発表を聞いて自らの実践を振り返り、「保健指導の狙いや思い」を1文にて(主語・述語)一人5~6枚のラベルに書く。 ②グループ内でそのラベルの意味を元に意見交換する ③そのラベルで意味内容が類似しているものをまとめグループ化し、そのグループに表題をつけてしてゆき、さらに大きなグループにまとめてゆくことを繰り返してゆく作業を行った。 ④模造紙にそのグループ化したものを位置づけながら貼り付けていった。 ⑤その作業を仲間と検討しながら進める中で、保健師が日頃からの思いや狙いを持って取り組んでいるかを視覚的にも明確にすることができる。 参加者が主体的に参加し、それぞれの領域で求められている保健指導について考察できた。領域の異なる保健師や年代の異なる保健の参加であったので、公衆衛生の観点での保健指導を検討することができた。

		12
都道府県		岡山県
継続年数		3
開催場所		岡山県看護協会
開催日		H22年11月13日 37名 参加者25名 スタッフ12名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		150(75)
実行委員会等の設置		
目的		1. 参加者が自らの保健指導を振り返り、さらなる力量形成にむけた課題と行動計画を明確にする 2. 岡山県における保健師ネットワークの構築、強化の方向性を明確にする
目標		【目的1について】 ①実践事例発表とグループメンバーの実践の語りを聴いて、効果的な保健指導について考え、グループ討議で発言できる ②実践事例発表を聴いて自らの実践を想起するとともに、グループ討議で、自らの実践を語るができる。 ③一連の過程を通して、保健指導における自らの実態やレベル、課題を振り返り、これからの行動目標、行動計画を考えることができる 【目的2について】 ④一連の過程を通して、他領域の保健師と交流し、お互いの業務や役割について理解を深めることができる。 ⑤一連の過程を通して、保健師の専門性を確認し、ネットワーク構築・強化の必要性を再確認できる。 ⑥岡山県の保健師同士の語り合い、学び合いのネットワークづくりについて、グループ討議やアンケートで意見を述べるができる。
企画の背景		平成20年度、21年度と継続的に保健指導ミーティングを開催し、領域を越えた保健師間の交流と連携が促進されたことを実感している。語り合い、学び合いの必要性の理解も進んだように感じている。今後、それらのさらなる強化のために、今年度も継続して応募することとした。 1回目は、昨年度の鹿児島県の2回目を参考に考えた。また、県協会で独自で開催する2回目では、ネットワークづくりへの展開を意識して考えた。
プログラム	場の組み立て	終日開催 午前 ①ガイダンス(ミニレクチャー) 実践事例発表を個々の力量形成に活かす学び方を学ぶ ②実践事例発表 ③グループ討議1 実践事例発表の感想 ④全体発表1 ⑤午前のまとめ 午後 ⑥グループ討議2 ⑦グループ討議3 「よりよい保健指導とは」グループのまとめ ⑧全体発表2 ⑨午後のまとめ(ミニレクチャー) ⑩ネットワークづくりについて意見交換
	実践事例発表内容	実践事例数2例 ①兵庫県洲本市 健康増進課 保健師 ②岡山済生会総合病院 予防医学部 保健師
※下線はモデル事業者		
グループ討議		午前 グループ討議1 ①実践事例発表の感想 午後 グループ討議2 ①各自、実践の振り返り & メンバーによる傾聴+引き出し ②各自、想起されたこと、行き詰まって経験、しつくり来なかった経験を語る ③どんな場面だったか、自分はどう考え行動していたのか感じたか、 ④相手の反応はどうだったのか、自分はそれをどう感じたのか、 ⑤良かったこと改善したいこと、その理由、⑥今度同じ状況ではどうしたいのか、 そのために学習することは何か、日々トレーニングすることは何か、など グループ討議3 「よりよい保健指導とは」グループのまとめ

		13
都道府県		山口県
継続年数		1
開催場所		山口県周南総合庁舎さくらホール
開催日		H23年1月 8日 78名 参加者 62名 スタッフ16名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		70
実行委員会等の設置		実行委員会
目的		現在、生活習慣病の増加が著しく、その対策は喫緊の社会的課題となっている。周南市においては、特定健診の受診率向上、特定保健指導の利用率向上、医療機関間の連携充実など地域全体で生活習慣病対策に取り組んでいる。保健指導においては、ポピュレーションアプローチは、市直営で動機付け支援を実施し、ハイリスクアプローチについては、医療機関によりチームで継続支援を実施している。そこで、今回は生活習慣病の保健指導について、周南市の実践事例を中心に岩国市(モデル事業所)の継続的ポピュレーションアプローチ事例を加え、それらの実践的手法を学ぶとともに参加者の実践と照らし合わせて、生活習慣病における保健指導のスキルアップを図る場とする。また、今回の保健指導ミーティングを山口県看護協会周南地区支部と協力して実施することで、来年度以降、各地区支部主催で保健指導ミーティングの手法を用いた活動が展開できる基盤づくりとする。
目標		①特定保健指導のポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチの実践手法を学ぶ ②チームで関わる保健指導の実践を学ぶ ③日常の保健指導を振り返ることができる ④実践事例報告及びグループ討議をとおして、専門職として保健指導の実践力を磨くことの楽しさを認識する ⑤来年度以降、各地区支部の活動計画に今回のような保健指導ミーティングを企画しようと意欲がわく
企画の背景		①職能委員会として、「担当者は熱心に業務として保健指導に取り組んでいるが、保健師職能としての指導力アップ、技術の蓄積に至る保健師間の横の連絡などが乏しい」という問題意識を持っており、保健師の技を磨く場を検討していた ②今年度の山口県保健師職能集会において、会員から強い開催要望があった ③糖尿病対策は、各医療圏や自治体単位で取り組まれており、保健指導・地域連携を考える上では最適と考えた ④山口県は地区支部が11支部あり、昨年の「保健師の活動基盤の基礎調査」において、そのネットワークが機能し、高い回答率を得た。この時、県内の保健師ネットワークがまだ生きている実感を得たので、このつながりを失わず、よりパワーアップするために、今年度、山口県保健師職能委員会として保健指導ミーティングに取り組み、その成果と経過を地区支部活動の礎にしたいと考えた
プログラム	場の組み立て	午後開催 ①実践事例発表1 ②グループ討議 コーディネータ 山口県立大学看護栄養学部 教授 藤村孝枝、准教授 吉村真理 ③全体発表、助言 ④実践事例発表2 ⑤講評 ⑥感想・アンケート
	実践事例発表内容	実践事例数4例(発表時間1人15分) 実践事例発表1 ハイリスクアプローチ ①「自発的な行動変容をめざす効果的な保健指導の進め方」～動機付けとファシリテーションの工夫～ (岩国市健康福祉部健康推進課 保健師) ②「働き盛り会社員への特定保健指導事例報告」地域医療支援病院オープンシステム (徳山医師会病院 保健師) ③「ベテラン主婦への特定保健指導事例報告」(総合病院社会保険徳山中央病院 健康管理センター 保健師) 実践事例発表2 ポピュレーションアプローチ～ハイリスクアプローチ ①「関係機関と検討・協働して展開するポピュレーションアプローチの取り組み」(岩国市健康福祉部健康推進課 保健師)
※下線はモデル事業者		
グループ討議		テーマ:自発的な行動変容をめざす～初回面接時の目標設定から～ 事例の読み取り時、自分の実践を振り返る時の視点(コーディネータより) 〈事例の読み取り視点〉 ①対象者が自身の健診結果(身体の状況)を理解し、自分の日々の生活のしかたを振り返る過程へ、保健師はどう関わり対象者はどう反応したか ②目標設定や行動計画に至る過程で、保健師自身がどういうふうに関わり、対象者の理解をどう引き出していったのか 〈自分の実践を振り返る視点〉 ③自分は、目標・行動計画をたてる過程をどう支援しているか ④対象者自身が、健診結果と日々の生活の仕方との関連を理解する過程をどう支援し、目標設定、行動計画立案に繋げているか グループ討議1(10分) 事例の理解と共有 事例の共有をする中で、発表者に確認したいことや質問したいことを出し合う。 (その後、全体発表と発表者からの回答10分) グループ討議2(20分) 事例についての理解を深める 目標設定という視点で分析する。 (その後、全体発表15分) グループ討議3(35分) 自分の実践の振り返り 対象者の目標設定に至る過程で、保健師自身の関わり方や相手の反応のとらえ方を振り返る (その後、全体発表10分) 講評 15分 感想・アンケート 10分

		14
都道府県		徳島県
継続年数		2
開催場所		徳島県看護会館
開催日		H22年11月23日 18名 参加者14名 スタッフ4名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		100
実行委員会等の設置		関係機関代表者と企画運営会議を開催
目的		特定保健指導実施者が、事例等とおして自身の保健指導の課題を明らかにすることで、保健指導実施者としてのスキルアップを図り、効果的に指導、支援する能力を養う。さらに、活動領域を超えて情報交換等交流を深めることにより、保健師間の連携やネットワークづくりの契機とする。
目標		①事例等とおして自らの保健指導を振り返ることができる。 ②自らの保健指導の課題等を確認できる。 ③保健指導の課題を明確にし、改善点に気づくことで、保健指導のスキルアップを図る。 ④保健指導を受けた者の生活習慣の変化と健診結果の改善。 ⑤保健師間の交流によりネットワークの必要性を認識することができる。
企画の背景		市町村国保は、特定保健指導について教材の工夫など科学的な根拠に基づく保健指導を試行錯誤の中で実践してきた。昨年度本事業を実施して、保健師活動領域の参加者の声から、実践者の情報交換や交流が必要であることを確認した。今回は、事例等とおして自らの保健指導を振り返ることができ、課題を明確にして保健指導のスキルアップを図れば良いと考え、継続を念頭に置いた企画とした。
プログラム	場の組み立て	午前開催 ①特定保健指導における現状と課題 ②実践事例発表 ③グループ討議 ④全体発表 保健指導対象者が自身の健康課題に気づき、行動変容をめざすために ～事例から学ぶ保健指導の効果と評価について～
	実践事例発表内容	実践事例数3例(各10分) ①「健康の未来図をイメージしてみましょう 健康自己宣言」 徳山通運(株) 保健師 ②「障害をもっている方への特定保健指導」 (財)労災サポートセンター 保健師 ③「私はどの段階にいるんだろうか？自分の健康を理解できるようになる」 佐那河内村役場 保健師
グループ討議		テーマ:振り返り、考え、語ろうそして気づこう、私の保健指導習慣病(60分) 健診結果から本人が身体状況を理解し、生活習慣改善の必要性を認識でき、行動目標を自らが設定し実行できるよう、個人の行動変容をめざした保健指導を行うために、対象者の考えや行動変容のステージ(準備状態)を考慮し、個別性を重視した保健指導を行うことを参加者で検討する機会とする。今回は40歳未満の事例も検討し、個人の遺伝環境要因や生活習慣により若い年代から生活習慣病予防への取り組みが必要であることを共有する。 ①事例について 事例Aさん(糖尿病 56歳 男性)、事例Bさん(高血圧 67歳 男性)、事例Cさん(脂質異常 34歳 女性) ②グループ討議の留意点 ・各グループの進行はファシリテータにお願いする ・グループ討議の内容、意見についての記録は職能委員が行う 1グループは事例1を、2グループは事例2を、3グループは事例3を最初に取り組む。時間に余裕ができれば、他の事例も検討する。 ・発表者は決めない。できるだけ全員から意見や感想をだしてもらう ③グループ討議の流れ ・各自で健診結果の読み取りを行う ・読み取った内容について、対象者が自分の身体に起こっている状況をイメージできるような説明・保健指導の方法をグループで話し合う ・現在、各職場でそれぞれ実施している方法や使用している媒体について紹介してもらう ・話し合い結果を発表し、全体の意見交流を行う 【コーディネータ1名、ファシリテータ4名、記録(職能委員)4名】

		15
都道府県		香川県
継続年数		2
開催場所		(社)香川県看護協会看護研修センター
開催日		H22年11月 6日 24名 参加者10名 スタッフ14名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		
目的		様々な領域で活動する保健師が保健指導実施者として実践事例を持ち寄り、情報交換し、自らの保健指導を振り返る事で、効果的な保健指導を展開できる。
目標		①事例を通して自らの保健指導を振り返ることができる。 ②地域や領域の異なる保健指導実践者との意見交換を行うことで、自分の所属職場で実行可能、かつ効果的な保健指導が検討できる。 ③保健師同士の技術交流のためのネットワーク構築の必要性を認識できる。
企画の背景		昨年の保健指導ミーティングで「保健指導をするにも人が集まらない。どうすれば人が寄せられるか。」を課題にしてチラシ作りのノウハウを勉強した。見やすく、斬新なアイデアいっぱいのチラシを提供し、人を寄せる楽しさは感じる事ができた。グループ討議をすすめていくなかで保健指導の技術面に各領域の保健師たちが悩んでいる状況も聞き、うまくいった事例やいかなかった事例を基に保健指導を振り返り、実施者のスキルアップと保健指導の質の向上を図ることを目的に事業企画する。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①実践事例発表 ②事例を基に検討課題の提供およびグループ討議の進め方について説明 ③グループ討議 「自分の保健指導の振り返りとこれからの保健指導について」 ④全体発表 ⑤総評及び講義 香川県立保健医療大学 教授 高嶋伸子先生 ⑥アンケート回収
	実践事例発表内容	実践事例数4例 (発表時間全体で90分) ①三豊総合病院健康管理センター保健師 ②全国健康保険協会(香川)保健師 ③高松市 保健師 ④三豊市 保健師 事業計画必須要件2の①～⑥(P28参照)に加えて、 ①効果的な保健指導を実施するための課題 ②効果的な保健指導が実施できたと考えるポイントについて発表
グループ討議		グループ討議(80分) グループ討議1(4Gに分かれて各Gに実践事例発表者が入り、事例を共有した) ①事例検討 ・実践事例発表者は事例について概要を説明する(討議にのせたい部分に焦点をあてて) ・グループメンバーは質疑応答により事例をイメージ化し、自分ならどうするか、自分の事例のようなイメージを持ちメンバー間で共有する ・その事例を自分の事例として自分の保健指導を振り返り、具体的に取り組むべき支援技術を明確にする グループ討議2(①～③について各Gで話し合い、全体討議を行った) ①事例検討を通して分かったこと 事例のほとんどが成人であり、自分のことより仕事や家族を優先してきた人。その上生活習慣病という痛くも痒くない人たちで、今日や明日には変化のない事例。そこで「生活を変える」という一大イベントを試みる人であった。 ②感想 4事例の共通点として、一般的に苦手だと思っているタイプ、本音で迫れないタイプが挙げられる。保健指導の特色である健康問題を生活の視点から捉え、活動の主体が対象者自身であり、常に予防の視点を忘れてはならない。 ③保健師の役割 相手も保健師自身が緊張している初回面接が一番大事。保健師自身が鎧を取り、保健師の想いを伝える。関係を継続するために、想いを伝えきれないことで、本音に迫れていない。長い目で見ることも必要ではあるが、6ヶ月間の支援の中では、その人の重大性を認識することが大事であり、認識を知るためには話し合うことが大事である。 <運営上配慮した点> ・グループメンバーは年齢や領域が偏らないように設定した。 ・保健師職能委員ファシリテータとして各Gに入り、記録や発表者は参加者に設定した。

		16
都道府県		愛媛県
継続年数		1
開催場所		愛媛看護研修センター
開催日		H22年11月6日 39名 参加者 30名 スタッフ 9名 H22年12月11日 48名 参加者 31名 スタッフ 17名
開催数		2
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		
目的		①実践事例発表等を通して、3年目となる特定保健指導における課題(行動変容の困難さ等)を参加者で共有し、その解決策を探る。 ②個人の健康管理意識や行動変容を考える中で、健康を通じた地域づくりの必要性に気づき実践に結びつける。 ③研修を通して、保健師自身が学びあうためのネットワークを獲得する。
目標		①自身の実践を振り返ることができる。 ②自身の課題に気づくことができる。 ③問題を解決する具体策を得ることができる。 ④研修参加によってネットワークを獲得できる。
企画の背景		平成20年度からスタートした特定健康診査・特定保健指導の取り組みは試行錯誤しながら3年目をむかえた。特に積極的支援、動機づけ支援の対象者への保健指導は、県内の各市町で取り組みをしているが「初回参加から徐々に減少する参加者」「手ごたえを感じることができない」「相手の思いと伝える側(企画側)の気持ちのずれ」等、一生懸命取り組んでいるが達成感が得られないという声が多くあった。こういった状況を改善するため、県内の保健師が集い、原点にたつて、取り組みの現状を認識しあうと共に、市町・産業分野の実践事例、さらにモデル事業者の実践事例を通して効果的な保健指導について討議し実践につなげたい。
プログラム	場の組み立て	全体テーマ「信じよう住民の力、発揮しよう保健師の英知と力」 終日開催 ≪1回目≫「信じよう住民の力、発揮しよう保健師の英知と力Part I～生活の実態を見る～」講師:松下 拓 ①自分の生活と自分の体に対する変化 ②住民に力をつけるとはどういうことか ③相手を変えるには自分がどう変わればいいのか キーワードは「みる・気づく・変わる」 午後開催 ≪2回目≫「信じよう住民の力、発揮しよう保健師の英知と力Part II～保健師実践編～」 コーディネーター:愛媛県立医療技術大学 教授 野村美千江 ①実践事例検討(70分)②質疑応答(20分)③グループ討議(60分) ④全体発表(25分) ⑤まとめ(5分)
	実践事例発表内容	≪1回目≫ 「信じよう住民の力、発揮しよう保健師の英知と力Part I～生活の実態を見る～」講師:松下 拓 ①自分の生活と自分の体に対する変化 ②住民に力をつけるとはどういうことか ③相手を変えるには自分がどう変わればいいのか キーワードは「みる・気づく・変わる」 ≪2回目≫ 実践事例数4例 (①は10分、②、③は15分、④は30分) ①「松野町の特定健診・特定保健指導をとおして」松野町 保健師 ②「大洲市の特定健診・特定保健指導の現状と課題」大洲市 保健師 ③「企業の実践例」伊予鉄道株式会社 保健師 ④「自発的な行動変容を目指す効果的な保健指導の進め方～動機付けとファシリテータの工夫～」 岩国市 保健師2名
※下線は モデル事業者		
グループ討議		≪1回目≫ グループ別意見交換と全体会 目的の中のキーワード4点①行動変容の困難さ②個人の健康管理意識と行動変容③健康を通じた地域づくり④学びあうためのネットワークの獲得を講演から確認した。このことをふまえ、グループでの意見交換をおこなった。講演や意見交換から、 ①保健師が地域で活動する意義 ②自分自身の日常的におこなっている活動の現状や保健指導の有様に気づく ≪2回目≫ グループ討議(60分)と全体会 目的:4つの事例と自分の体験を照らし合わせて考える。 4つの事例から ①発表を聞いて感じたこと(自己紹介しながら感想を述べる) ②自分の活動を振り返る機会とする ③振り返りを踏まえて、今後どの様に活かすか

		17
都道府県		高知県
継続年数		2
開催場所		高知県看護協会会館
開催日		H22年11月27日 44名 参加者24名 スタッフ20名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		実行委員会(コーディネータ、県国保連合会、検診機関、医療機関、高知県主管課市町村保健衛生協議会)
目的		行政、産業、医療、検診機関等様々な領域での保健指導実践者が実践事例を通してスキルアップし、意見交換を通して保健師間の連携・ネットワークを図る。
目標		①「私の実践」を振り返ることができる。 ②具体的な気づきが得られる。 ③取り組みべき実践上の課題が明らかになる。
企画の背景		H21年度の保健指導ミーティングでは、各保健師活動領域(行政、産業、医療、保険者など)の参加者から、保健指導を学ぶ必要性や研修がスキルアップに繋がる発言があった。今回は実行委員会を立ち上げ、地元大学の協力を得ながら、企画段階から連携して保健指導者のスキルアップをめざし、効果的な保健指導を学ぶ機会として取り組むこととする。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①実践事例発表 ②グループ討議1 ③グループ討議2 ④全体発表 ⑤講評・まとめ コーディネータ 高知女子大学 看護学部看護学科教授 時長美希
	実践事例発表内容	実践事例数3例(①60分、②・③20分) ①洲本市健康増進課 保健師2名 「先駆的保健活動交流推進事業 実践報告」 ・3年間の保健指導事業を振り返って ・保健指導の実践を振り返る(自分の実態に気づく支援から) ②四万十市保健介護課 保健師 ・四万十市の特定保健指導について ③香美市健康づくり推進課 保健師 ・けんこう香美ングセミナーでの実践を通して
※下線は モデル事業者		
グループ討議		コーディネータ:高知女子大学 看護学部看護学科教授 時長美希 (ファシリテータをグループに1人配置) ①グループ討議1「実践事例発表の振り返りと気づきについて」30分 ・午前の実践事例の振り返りを「参考になったこと」「実践できそうなこと」「実践のなかで大切にしたいところ」の意見を出し合い、自分の実践に引きつけて意見交換する。 ②グループ討議2「設定事例を基に相手の気づきを促す保健指導について」75分 ・設定事例を基に、事例の読み取りを通して、自分ならどう判断するか。生活の特徴 や課題、事例の強みを出し合い、事例にどう関わったらよいか、根拠を出し合い、家族や地域などで今後どのような取り組みが必要かまた、午前の事例報告を含めて、今後(わたしにとって)、指導の場で大切にしていきたいことを出し合う。 グループ討議から、自身の保健指導を振り返り、具体的な気づきを得て、取り組むべき実践上の課題を明らかにする。 ・グループ発表20分(①、②全体含めて発表) ・事例の実際 5分 ・講評・まとめ(演習全体)20分

		18
都道府県		長崎県
継続年数		1
開催場所		長崎県看護センター
開催日		H22年12月5日 35名 参加者18名 スタッフ17名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		50
実行委員会等の設置		拡大職能委員会の設置
目的		生活習慣病を支援する保健師の力量形成には、保健師自身が自分の実践を振り返り、対象者の行動変容に結びつく保健指導の実践をつかむことは不可欠である。今回、実際行った保健指導事例の検討や、領域の異なる保健指導実施者との意見交換を通して自らの実践を振り返り、保健指導のスキルアップをはかり、保健指導の質の向上を目指すことを目的とする。
目標		①保健師が実践事例の発表を受け(聞いて)、自分が「対象者(住民)」に対してどのような考えや捉え方でどのような保健指導を行っているのか振り返りの場とする。 ②「自分の実践を語る」場を設定し、自分の保健指導のつまづき、迷い等共感を感じるプロセスを学ぶ場とする。 ③保健師が自分が行っている保健指導の実践を意識化し、自分自身の考えや行動に気づく契機となる場とする。
企画の背景		平成20年度より開始された「特定健康診査・特定保健指導」を実施する中で特に「保健指導」の成果のでている実践例の研修は受けているものの、保健師が自分の保健指導をじっくり振り返る場はなかったように感じている。今回このような機会を利用し、対象者の行動変容に結びつく保健指導の展開を身につけるスキルアップをはかるには今しかないという気持ちの高まりで応募した。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①実践事例発表 ②グループ討議1 ③全体発表 ④グループ討議2 ⑤全体発表 ⑥講 話 「保健師が行う効果的な保健指導」 講師:日本看護協会常任理事 井伊久美子 ⑦グループ討議3 ⑧全体発表 ⑨まとめ
	実践事例発表内容	実践事例数1例 (発表時間40分) モデル事業者(五島市)の取り組み「生活習慣病予防活動支援モデル事業を実施して」
※下線はモデル事業者		
グループ討議		グループ討議1「実践事例報告を受けて」(30分) ①会参加の意義、実践報告を受けて良かった点、効果的と思った点 グループ討議2「自分の保健指導を振り返っての気づき」 ①保健指導において心にひっかかったり、行き詰ったり、難しさを感じたり、手応えを感じた事例を紹介し合う。ひっかかりを感じた時、何を考え対処したのか(40分) ねらい:自分自身の保健指導をどのような視点でおこなっていたのか言語化する場とする グループ討議3 ①「今日一日の気づき」「取り組む保健指導について」 (40分)ねらい:自分自身の保健指導について気づき学びを出し合う。そしてこれからの自分の保健指導への決意表明を行う場とする

		19
都道府県		大分県
継続年数		2
開催場所		大分県看護研修センター
開催日		H22年12月11日 84名 参加者69名 スタッフ15名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		80
実行委員会等の設置		
目的		様々な領域で活動する保健師が現在行っている保健指導を振り返り、お互いの情報交換をとおしてスキルアップを図るとともに、保健師の連携を深める。
目標		①参加者が自分の行っている保健指導を振り返ることができる。 ②参加者が具体的な気づきを得る。 ③参加者各自の今後の取り組むべき課題が明確になる。
企画の背景		①平成21年度、保健指導ミーティングを開催したところ、このような取り組みを続けてほしいという声が多かった。平成22年度はより多くの保健師の参加を呼びかけたい。 ②産業保健分野や市町村、保健所等の様々な領域の保健師のつながりを深める機会としたい。
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①実践事例発表1 ②実践事例発表2 ③グループ討議1 ④発表 ⑤講義 「生活習慣病予防活動の展開と評価」 ～ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの連動～ ⑥グループ討議2 ⑦全体発表 ⑧助言
	実践事例発表内容	実践事例数2例 (竹田市25分、国東市60分) ①生活習慣病予防のための取り組み 竹田市 保健師 ②21年度先駆的保健活動交流推進事業(モデル事業)を活用した保健指導の実践報告 Part2 国東市 保健師
※下線はモデル事業者		
グループ討議		グループ討議1 ねらい:自分の保健指導の状況を意識し、行動変容が必要なことに気づく ①自己紹介 ②感想(実践事例発表を聞いてよかった・すばらしい点、興味深いと思った点、特筆すべき点) ③自分達たちの保健指導を振り返って思ったこと(うまくいかなかったこと、しつくりいかなかったこと、できていなかったこと等) グループ討議2 ねらい:自分が今後しようと思う取り組みについて確認する これから職場に戻って取り組んでみたいこと～広めたいこと、深めたいこと～ ①すぐに取り組めること(今後1カ月で取り組めること) ②すぐには無理だけど大事・重要なこと、やっつけていかなければならないこと

		20
都道府県		宮崎県
継続年数		1
開催場所		宮崎県総合保健センター
開催日		H23年1月15日 67名 参加者59名 スタッフ8名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		40
実行委員会等の設置		
目的		保健指導実践者が、事例などを通して自主的に問題解決に取り組むために、スキルアップ及びネットワーク構築を図る。
目標		①地域や領域を越えた情報交換により保健指導の重要性に気づく。 ②保健師の行う保健指導が行動変容につながるためのスキルを身につける。 ③保健師が仲間と話し合うことでネットワークの基盤をつくる。
企画の背景		特定保健指導等の知識を得るための研修の機会があったものの、保健指導そのものについて語り合い振り返る機会がなかったため、情報交換を行い保健指導のスキルを深めることを目的とした研修を企画した。
プログラム	場の組み立て	午後開催 ①基調講演 保健指導の必要性と専門性 講師 国立保健医療科学院 中板育美 ②実践事例発表 ③グループ討議 ④グループ討議のまとめ (講評及び助言を基調講演講師にお願いする)
	実践事例発表内容	実践事例数2例 (発表時間1人15分) ①市町村での保健指導実践事例 国富町 ②企業での保健指導実践事例 旭化成 健康保険組合
グループ討議		グループ討議(60分) テーマ 行動変容を促すための保健指導とは ファシリテータは職能委員、グループの中の助言を基調講演講師にお願いする ①行動変容を促せた事例について ②行動変容を促すために必要なこと

		21
都道府県		鹿児島県
継続年数		1
開催場所		徳之島町生涯学習センター
開催日		H23年1月22日 23名 参加者17名 スタッフ6名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		30
実行委員会等の設置		職能委員+助言者を交えた打ち合わせ会議を開催
目的		①特定保健指導等を実施している保健師が自らの保健指導を振り返ることにより、住民が自らの生活を振り返り自己決定し行動変容するプロセスを支援できる保健指導実施者としてのスキルアップを図る。 ②地域や領域の異なる保健指導実施者との意見交換を通し、自分自身の実践を言語化し、自らの保健指導を振り返り、保健師間の連携やネットワークづくりを推進する。
目標		①参加者が特定保健指導等の実施者として自分自身の実践を言語化し、自らの保健指導を振り返る場とする。 ②参加者が「仲間」と対話し、自信を深め、継続的な学習ネットワークづくりの足がかりとする。
企画の背景		平成21年度、保健指導ミーティングを実施し、保健師が業とする保健指導のスキルアップに役立つとともに、保健指導を実施する上での課題や悩みを共有することで、保健師間の仲間作りにつながることを実感した。本県の保健師の会員数は減少傾向にあり、特に離島地区からは看護協会への加入についてメリットがないなどの声もある。また、離島地区は比較的若い保健師が多く、現任教育体制は十分といえない状況にあることから平成22年度は離島地区での開催をしたいと考え応募した。(当初奄美大島地区での開催を予定していたが、豪雨災害のため徳之島地区での開催となった。)
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①講話「癒しの時間」講師:新田みずづ ②実践事例発表 ③グループ討議1 ④グループ討議2 ⑤個人ワーク ⑥グループ討議3 ⑦全体発表 ⑧事例提供者・助言者の意見・まとめ
	実践事例発表内容	実践事例発表 1例 (発表時間40分) ①与論町 保健師 「JNAグループ支援プログラムを実践してみてー保健指導(支援)を振り返るー」
※下線はモデル事業者		
グループ討議		1グループ5~6人のグループに分かれる グループ討議1 ①自己紹介と実践事例発表についての感想等を出し合う グループ討議2 ①参加者の事前準備資料に基づき、保健指導において心にひっかかり(気になる、行き詰まった、難しいあるいは手応えを感じた)を感じた場面を場面を紹介し、事例提供者に振り返ってもらい、事例についてメンバー間で意見交換する。 ・何を意図してどのような保健指導を行ったのか。 ・対象者のどのような反応が気になったのか。 ・具体的にどのようなひっかかり(気になる、行き詰まった、難しいと感じた)を感じたのか ・ひっかかり(気になる、行き詰まった、難しいと感じた)を感じた時は、何を考え、どのように対処したのか。 個人ワーク ①今後の自分の保健指導への取組や思いをまとめる。 グループ討議3 ①保健指導への今後の取組について意見交換 ②オブザーバ参加者・グループ助言者の感想や気づきの紹介 ③事例提供者の感想 全体発表 実践事例発表者・助言者の意見、まとめ

		22
都道府県		沖縄県
継続年数		1
開催場所		沖縄県看護研修センター
開催日		H22年12月 4日 44名 参加者 26名 スタッフ 18名
開催数		1
参加 所属領域	行政	○
	産業	○
	医療	○
	福祉	○
	教育	○
参加人数(予定)		40
実行委員会等の設置		職能委員+県内講師
目的		行政及び産業等、多様な領域、多様な立場で活動する保健師が一堂に会し、自分の実践を語り、お互いの実践を知ることにより、保健指導実践者として、スキルアップし、生き生きと活動できるためのネットワーク化を図る。
目標		① ひとり一人が保健指導のスキルアップする場面に気づくことができる。 ② 保健師同士が所属内や他機関とどのように連携を図ればよいか考えることができる。 ③ 保健師同士の技術交流のためのネットワーク構築の必要性を認識できる。
企画の背景		特定健診・特定保健指導に関する研修会は、講演会形式やモデル市町村の実践報告等が主流で、保健指導の実践事例を相互に学びあう研修会は未だ実施されていない状況にある。また、保健指導の効果については、一生懸命取り組んでいるが、なかなか効果が挙がらず苦慮している等様々である。 職能委員として保健師のネットワーク化を模索している中、日看協の「保健指導ミーティング」の主旨に感動を覚えた。保健師同士が実践事例を報告し学びあい、ネットワーク化を図ることは、保健師の質の向上を図るのみならず、保健師が孤立せずに生き生きと元気に活動し続けるための事業であると確認し応募することとした。今回は、保健行政・産業保健・医療機関等各領域においての実践活動を学び合いスキルアップとネットワーク化を目指したい
プログラム	場の組み立て	終日開催 ①実践事例発表(ミニシンポジウム形式) ②グループ討議1 ③実践事例発表(県外) ④グループ討議2 ⑤全体発表 ⑥講演「保健師の保健指導とは」 講師 琉球大学医学部保健学科教授 宇座美代子
	実践事例発表内容	午前 実践事例数4例 ①ちばなクリニック ②全国健康保険協会沖縄支部 ③宮古島市 ④中城(なかぐすく)村 午後 実践事例数1例 ①モデル事業者の報告(大分県国東市)
※下線はモデル事業者		
グループ討議		グループ討議1(午前) ①自己紹介:自己紹介の中で参加の動機について話してもら(ふせんの使用) ②シンポジウムの報告から 日常業務における共通の課題について 日常業務に生かすことができる工夫や実践について グループ討議2(午後) 国東市の報告から ①行動変容を図るためには ②保健師のスキルアップを図るためには ※各自の保健指導において行動変容やスキルアップで実践していることや国東市の報告から実践できること等について話し合う(ふせんの使用) 【グループ討議を進めるための留意点】 ・1グループあたり6～7名の4グループに分ける。各領域の異なるメンバー構成にする ・各グループにファシリテーターが入り進行し、職能委員が記録をする ・目配り役は(3名)は職能委員が担当する ・グループ討議は①必ず全員が発言できるように配慮する②他の人の話を聞いてもらうように仕向ける③自分も参加する(代弁機能)④うまくいっていない人も気後れしないで発言できるように後押しする⑤話が散漫になったら、テーマが確認できるようにする⑥参加者が自分のことを意識できるように具体的に問いかけていく

厚生労働省 平成22年度 保健指導支援事業 保健指導ミーティング 募集要項

1. 目的

特定健診・保健指導の開始により、生活習慣病予防の中心的な役割を担う保健師には、保健指導で効果を上げることが期待され、とりわけ保健指導のスキルアップは重要な課題となっている。

平成20年度より、本会では、保健指導に携わる保健師のスキルアップの場づくりと、保健師の専門性を発揮するための基盤強化を視野に入れたネットワーク構築をねらい、「保健指導ミーティング」を進めてきた。その取り組みを通して、保健指導ミーティングを効果的に進めるための企画・実施のポイントや展開例が明らかとなり、普及を行っている。

3年目となる今年度は、保健指導ミーティングにおいて、参加する保健師に保健指導のスキルアップの動機づけと、多様な領域で保健指導に従事する保健師のネットワーク強化をねらうと共に、実施した保健指導ミーティングの効果を検討することを目的としてスキルアップの動機づけのフォローアップを含む企画を募集する。

2. 開催期間

平成22年9月～平成23年1月中旬

3. 企画案の募集

- 1) 募集件数：合計20件程度
- 2) 公募期間：平成22年8月2日（月）～9月3日（金）17時 必着
- 3) 事業費：謝金、旅費（交通費・宿泊費・日当）、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、借料および損料（会場費）について実費（但し本会規定による）を日本看護協会で負担する。1件あたり35万円程度。
※ただし、応募件数が多数の場合、調整をお願いする可能性がある。

4. 応募条件

- 1) 都道府県看護協会保健師職能委員会の企画であること
- 2) 都道府県看護協会会長の理解が得られること
- 3) 都道府県主管課と連携していること
- 4) 本会の開催する会議（保健指導を担う人材育成検討委員会・拡大委員会）に出席すること（平成23年2月予定）
- 5) 関係組織・団体と連携し、多様な参加者で実施できるようなネットワーク作りをねらうこと
- 6) 報告された実践事例より優れた教材を提出すること
- 7) 保健指導ミーティングの評価を行うこと
- 8) 今後、可能な限り本会事業の検討会などにおいて助言者、発表者として協力すること

5. 申請手続き

申請書類（様式1～4）を記入のうえ、公募期間内に、次頁の提出先へ郵送する。

1) 申請書類

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| ①平成 22 年度 保健指導支援事業保健指導ミーティング企画申込書 | (様式 1) |
| ②事業の概要 | (様式 2) |
| ③事業計画書 | (様式 3) |
| ④予算計画書 | (様式 4) |

※これらの様式については法人会ネットに掲載予定。

2) 申請書類の提出先

社団法人 日本看護協会 事業開発部「保健指導ミーティング応募申請」 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 (TEL) 03-5778-8549 (FAX) 03-5778-5602

※電話による問い合わせは、平日の 9:00 から 17:00 (但し 12:00 から 13:00 を除く)

6. 選考、通知および選考発表について

1) 選考

保健指導を担う人材育成検討委員会において採用企画の選考を行う

2) 通知方法

決定者には、平成 22 年 9 月 17 日 (金) 以降に都道府県看護協会会長宛てに文書で通知する予定。

選外者に対しては、申込者本人のみに文書で通知する。※電話等での対応はしない。

3) 選考の発表

協会ニュース 10 月号にて、都道府県看護協会名を公表する。

7. 推進体制

学識経験者および地域・産業保健の実践者から構成される「保健指導を担う人材育成検討委員会」を設置し、応募要件の検討、採用企画の選考、視察、事業の推進および評価等を実施する。

8. 成果の普及

日本看護協会では本事業の成果の普及として以下のこと実施する予定。

- 1) 協会ニュース、本会公式 HP、報告書等で活動状況や成果等を公表
- 2) 関連学会等への成果報告

受付番号_____

平成 22 年度 保健指導支援事業保健指導ミーティング

企画申込書

平成 年 月 日

社団法人日本看護協会
会長 久常 節子 殿

平成 22 年度保健指導支援事業保健指導ミーティングを実施したく、所定の関係書類を添えて申込致します。

- 申込書類： 1. 平成 22 年度保健指導支援事業保健指導ミーティング企画申込書
2. 事業の概要
3. 事業計画書
4. 予算計画書

申込者 (代表者)	氏 名：	都・道・府・県看護協会 会長	公印
	所 属：		
	職 位：		
	所在地：〒		
		(TEL)	
		(FAX)	

実施者	氏 名：	保健師職能委員長	印
	所 属：		
	職 位：		
	所在地：〒		
		(TEL)	
		(FAX)	
		(E-MAIL)	

事務/補助担当者 氏 名： (E-MAIL)

(※必須項目ではありません)

企画の前にご注意下さい。

①「平成 21 年度 保健指導支援事業 保健指導ミーティング」を効果的に展開するために 平成 22 年 3 月 社団法人 日本看護協会」をご一読いただき企画立案にご活用下さい。

本会公式ホームページ（発行物のご案内→保健指導支援事業）からもご覧いただけます。

<http://www.nurse.or.jp/home/publication/index.html>

②事業評価（参加者アンケート、実施報告書）は、別添『暫定版 平成 22 年度 保健指導ミーティングの評価（案）』に基づいて行いますのでご参照下さい。

事業計画上の留意点

【必須要件】必ず企画に盛り込んで下さい。

1. 保健師の保健指導のスキルアップを目的とした実践事例検討会を行う。

方法例

〔 保健師の実践事例を報告する。
保健師同士が語り合えるよう、グループ討議を導入する。 〕

2. 実践事例には以下の内容を盛り込んで下さい。

①保健指導方法・内容・用いた理由、②使用した教材・用途・用いた理由、③対象者の発言・反応、④保健指導実施前後の保健師自身の認識、⑤保健指導の効果（評価方法・評価結果）、⑥所感（保健指導実施者の手応え・戸惑い・認識の変化など）

3. 保健指導ミーティングの評価を行う。

保健指導ミーティング当日、約 1 カ月後に参加者アンケートを実施する。

【任意要件】できるだけ考慮して企画して下さい。

1. 保健師の実践事例発表者として、『平成 19、20、21 年度先駆的保健活動交流推進事業』参加のモデル事業者を活用する。〈※モデル事業者については(参考資料 1)を参照〉

2. 事業の推進・評価支援のための講師・スーパーバイザーなどは各地域内で確保する。

【保健指導ミーティングに関するお願い】

1. 情報提供等のお願い

今年度、本会では保健指導ミーティングで報告された実践事例の中から優れた教材を収集する予定です。つきましては教材の提供について、ご協力方よろしくご願ひいたします。

なお、教材を提供頂く際の様式につきましては、選考結果を通知する際に別途お送りいたします。

2. 企画案等についての調整のお願い

保健指導ミーティング開催の主旨に沿っていない事項や不明な点につきましては調整させていただきます。ご協力をお願いします。

受付番号_____

事業の概要

◆空欄部を埋めてください

1. 申込者 (代表者) 氏名	都・道・府・県看護協会 会長		
2. 事業名			
3. 対象とする 地域	該当箇所に○を付けて下さい	4. 開催場所	施設名を具体的に記入
	県下全域 ・ 一部の地域 ()		
5. 開催日		6. 開催回数	回 (複数回開催可)
7. 保健指導ミ ーティング参加者の 所属領域	該当箇所に○を付けて下さい	8. 参加人数 (予定)	人
	行政・産業・医療・福祉・その他 ()		
9. 共同 企画者		所属機関	職位
10. 申請 希望額	総額_____円	※内訳は様式4に記入すること	

事業計画書

受付番号_____

1. 目的	
2. 目標（到達度）	保健指導ミーティング当日の参加者の到達度を記入する
3. 企画の背景（応募の動機）	
4. 周知方法	周知先、方法、多くの参加者に参加してもらうための工夫を記入する。
5. 事業計画	
1) 事業計画	保健指導ミーティングの準備や事後に（アンケート実施等の評価についても含む）実施する今後の予定を記入する。（現時点で記入できる範囲内で可）
準備（事前打ち合わせ・実践事例のヒアリング・ファシリテータの研修等）	
事後の取組み（ネットワーク・評価に関すること）	

2) 当日のプログラム構成（時間、発表者、形式を記入）	
6. 実施体制	実行委員会の設置、運営・評価などの体制を記入する。
7. 配慮点・工夫点	

*記入上の留意点

- 複数ページとなっても可能です。

予算計画書

様式4

県看護協会

申込者氏名:

受付番号:

予算総額: ¥0

(単位:円)

経費の科目	内容	単価	時間・回数・人数など	金額	小計	備考
1.謝金					0	
2.旅費 (※別紙旅費明細) 交通費 宿泊費 日当					0	
3.消耗品費					0	
4.印刷製本費					0	
5.通信運搬費					0	
6.借料および 損料 (会場費 設営費)					0	
7.雑役務費					0	
合計金額					0	

〔参考資料1〕

実践事例発表者として当日の参加依頼が可能な
H19～21年度先駆的保健活動交流推進事業参加のモデル事業者一覧

平成19年	北海道	美唄市
	福島県	喜多方市
	宮城県	柴田町
	大阪府	東大阪市
	島根県	松江市
	山口県	岩国市
	鹿児島	与論町
	静岡県	浜名湖電装株式会社
平成20年	兵庫県	洲本市
	長崎県	五島市
	青森県	むつ市
	茨城県	筑西市
	神奈川県	IHIグループ健康保険組合
平成21年	茨城県	行方市
	奈良県	天理市
	兵庫県	淡路市
	大分県	国東市

平成19～21年度先駆的保健活動交流推進事業参加のモデル事業者の活用について

上記モデル事業者は本会の先駆的保健活動交流推進事業において生活習慣病予防を目的とした効果のある保健指導に熟練し、成果をあげた体験を積んでいます。

このため、保健師の実践事例として、①保健指導方法・内容・用いた理由、②使用した教材・用途・用いた理由、③対象者の発言・反応、④保健指導実施前後の保健師自身の認識、⑤保健指導の効果(評価方法・評価結果)、⑥所感(保健指導実施者の手応え・戸惑い・認識の変化)などについて報告していただけます。

協力依頼をご希望の際は、直接モデル事業者にご相談ください。ご不明な点は本会へご連絡下さい。

※各モデル事業者に関する情報は、事前にお配りしている平成19年度、平成20年度、平成21年度の先駆的保健活動交流推進事業 報告書をご参照下さい。本会HPIにも掲載しております。

<http://www.nurse.or.jp/home/publication/index.html#07-1>

平成22年度 保健指導支援事業 保健指導ミーティング実施報告書について

保健指導ミーティング終了後には、実施報告書の提出をお願いしております。

これは、保健指導ミーティングの準備から実施後までの活動の記録であり、効果的な保健指導ミーティングの在り方の検討、保健師の力量形成における要素・要件の検討等の資料となるものです。この報告に基づいて、保健指導を担う人材育成検討委員会および事業開発部で保健指導ミーティングに関する報告書をまとめる予定です。

お忙しい中恐縮ですが、次ページからの様式をご確認の上、記入をお願いいたします。

1. 様式・提出について

※先に送付しております決算報告等【様式7～11及び14】と同様に提出をお願い致します。
（実施報告書【様式12】には、以下2）①～⑤を添付下さい）

- 1) 実施報告書【様式12】
- 2) 添付資料

- ① 保健指導ミーティング当日のプログラム（複数開催の場合はすべて添付する）
- ② 実践事例で発表された資料等（好事例として推奨する事例を添付する）
- ③ グループ討議で使用した資料（例：ワークシートなど）
- ④ 参加者へのアンケートの質問項目と集計結果（エクセル表）【様式13】
- ⑤ その他（貴協会独自で工夫した資料等）

どの資料が、①～⑤の添付資料として提出されているのかわかるよう、資料タイトル、ファイル名など簡単に記載をお願い致します。

提出締切日	各都道府県看護協会で開催した保健指導ミーティング終了から2カ月以内。 (最終締切は平成23年2月10日(木)17時まで)
-------	---

提出方法

メールでの仮提出→本会で確認→郵送にて様式7～様式14を揃えて正式提出

※添付資料①～⑤は、メール・郵送での提出共に次頁の添付資料明細を付けて、内容と資料がわかるよう明記して下さい。

提出・問い合わせ先

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2
 (社)日本看護協会 事業開発部 保健指導ミーティング担当
 TEL:03-5778-8549 / FAX:03-5778-5602
 E-mail: jna-phn@nurse.or.jp

※正式提出(郵送)は、封筒の表に朱書きで「保健指導ミーティング様式一式」と明記願います。

2. 作成・提出にあたっての注意事項

- 1) すべての様式は、法人会ネットに平成23年1月31日まで掲載しております。
- 2) 「平成22年度保健指導支援事業保健指導ミーティング 決算報告等の作成について」もご参照ください。
- 3) 実施報告書にある項目は、貴会において該当する内容について、可能な範囲でご記入願います。必ずしも全て記入する必要はございません。

I 事業の概要

【1】回答欄(右欄)を記入して下さい。

項目		回答欄						
1) 都道府県名								
2) 会長名								
3) 事業名								
4) 対象とした地域 (該当する項目を残し、該当しない項目は削除して下さい)		県下全域 ・ 一部の地域()						
5) 開催について *1回開催の場合は、1回目のみ記載して下さい *「領域ごとの参加者人数」には運営に係るスタッフ;職能委員、講師、実践事例発表者、コーディネータ、実行委員、ファシリテータなどは除いて下さい。	1 回 目	開催日	平成 年 月 日					
		開催場所						
		領域ごとの参加者人数	合計人数	行政	産業	医療	福祉	その他
			0					
	2 回 目	開催日	平成 年 月 日					
		開催場所						
領域ごとの参加者人数		合計人数	行政	産業	医療	福祉	その他	
		0						
6) 保健指導ミーティング当日のスタッフの実施体制について ※保健指導ミーティング当日の運営に関わった実人数を記入して下さい。 (*1回開催の場合は、1回目のみ記載して下さい)		合計人数	職能委員	講師	実践事例発表者	コーディネータ	実行委員	その他
	1回目	0						
	2回目	0						
7) 経費		総額 円						

II 実施内容

【1】保健指導ミーティング準備段階の取り組み

1) 保健師職能委員会、実行委員会での打合せや、ファシリテーターの研修など、準備段階での取り組みについて記入して下さい。

複数回開催の場合はセルをコピーして下さい。

会議・研修名	実施日 (所要時間)	参加したメンバー の役割	人数	実施しようと思った理由	内容
	平成 年 月 日 (:)	職能委員		人	
		講師		人	
		実践事例発表者		人	
		コーディネータ		人	
		実行委員		人	
		その他 ()		人	
		※該当しない項目を削除 して下さい			
	平成 年 月 日 (:)	職能委員		人	
		講師		人	
		実践事例発表者		人	
		コーディネータ		人	
		実行委員		人	
		その他 ()		人	
		※該当しない項目を削除 して下さい			

2) 保健指導ミーティングの周知方法について

関係機関や他団体と連携・協力して周知した場合は、周知した研修会なども含めて周知方法を記入して下さい。

	周知方法
行政	
産業	
医療	
福祉	
その他 ()	

【2】保健指導ミーティングの実施内容

1) 実践事例検討会について記入して下さい。

(1) 実践事例発表について

① 実践事例発表数を記入して下さい。

(職 能 委 員 会 が 発 表 を 依 頼 し た 事 例 を 、 実 践 事 例 発 表 と し て 数 え て 下 さ い 。)

ア. 実践事例発表数 ※2回開催の場合は2回目も記入して下さい。	1回目 (例)	2回目 (例)
-------------------------------------	---------------------	---------------------

② 発表を依頼した実践事例の中から当日の参加者にとってインパクトがあったことや学びとなっていたと思われる1事例を記入して下さい。

ア. 事例 ※1例(1人)ご紹介下さい。	事例発表者: ※事例提供者には実施報告書に報告する旨の了解を得て下さい。
イ. 当日の参加者にとってインパクトがあったことや学びとなっていた内容を具体的に記載して下さい。	

(2)グループ討議について

①グループ構成について以下の項目を記入下さい。

ア. 構成	(人)×(グループ)
-------	--

②グループ討議の進め方について記入下さい。

ア. テーマ	
イ. ねらい	

③グループ討議を進めるにあたって工夫したことは何ですか。
ファシリテートした際の工夫点、留意点もあわせて記入して下さい。

--

(3)モデル事業者の協力について

①どの場面でモデル事業者に協力頂きましたか。
(実践事例発表、グループワークのファシリテータとして等)

ア. モデル事業者名	
イ. 協力いただいた場面	

Ⅲ. 保健指導ミーティングの評価

【1】企画や実施内容等の評価

1) 以下の項目について、評価の欄に評価基準(数字)を記入して下さい。

※ここでの「目標」は企画時に貴協会を立てた保健指導ミーティング参加者の到達目標とする。

【評価基準】

1. 全くそう思わない(全くできなかった)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
3. ややそう思う(ややできた)
4. 非常にそう思う(とてもできた)

	評価項目	評価
		数字を記入してください
実施体制	①企画、評価の体制は整っていましたか	
	②マンパワーの量は見合っていましたか	
	③組織や団体、資源の有効活用ができましたか	
企画	④企画の目的と目標は、一致していましたか	
	⑤企画の目的と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	
	⑥目標と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	
準備	⑦目標が達成できるように、実践事例の準備が行えましたか	
	⑧目標が達成できるように、グループ討議の準備を十分に行えましたか	
	⑨実践事例検討会が効果的にできることに配慮して、多領域に周知を行えましたか	
実施内容	⑩目標が達成できるように、プログラムを進めることができましたか	
	⑪目標が達成できるように、実践事例を提供できましたか	
	⑫目標が達成できるように、グループ討議を進めることができましたか	
	⑬紹介した実践事例は、参加した保健師にとって、自身の実践と対比しながら検討できるような内容でしたか	
	⑭グループ討議は、参加者一人一人が発言できるように進めることができましたか	
ネットワーク	⑮地域や領域の異なる保健指導実施者との意見交換・情報交換の場となっていましたか	
	⑯業務に関連する情報交換ができるような関係性を構築することができましたか(パーソナルネットワーク)	
	⑰業務に関連する連携ができるような関係性を構築することができましたか(ソーシャルネットワーク)	

2)前頁1)①～⑰の評価について考察してください。(企画者として達成感を含む)

考
察

【2】保健指導ミーティング参加者の状況についての評価

1)保健指導ミーティング当日に実施した参加者アンケートの集計結果から、以下の(1)～(3)項目について評価してください。

保健指導ミーティング当日の参加者アンケート集計結果からの評価	
(1) 保健指導ミーティング参加者の到達状況 自己の実践の振り返り、スキルアップの動機づけ、ご自身の強化すべきスキルに関して評価してください。	
(2) 参加者の満足度	
(3) 参加者同士のネットワーク	

2)保健指導ミーティングの開催より約1か月後に実施した参加者アンケートの集計結果から、以下の(1)～(2)の項目について評価してください。

保健指導ミーティング開催約1か月後の参加者アンケート集計結果からの評価	
(1) 保健指導ミーティングに参加して、約1か月後の到達状況 スキルアップの動機づけ、ご自身の強化すべきスキル、スキルアップを意識した気持ちや行動に関して評価してください。	

保健指導ミーティング開催約1か月後の参加者アンケート集計結果からの評価	
(2) 参加者同士のネットワーク	

3) 上記1)～2)の項目以外で、評価したことがありましたら、ご記入ください。

IV 所感

保健指導ミーティングを実施して気づいたこと、本会への要望などがありましたら自由にご記入ください。

所感	
----	--

添付資料明細
<p>どの資料が、①～⑤の添付資料として提出されているのかがわかるよう、資料タイトル、ファイル名など簡単に記載をお願い致します。 資料番号等を付けられている場合は、資料番号を記載して下さい。</p>
①保健指導ミーティング当日のプログラム(複数開催の場合はすべて添付する)
②実践事例で発表された資料等(好事例として推奨する事例を添付する)
③グループ討議で使用了資料(例:ワークシートなど)
④参加者へのアンケートの質問項目と集計結果(エクセル表)【様式13】
記入不要です
⑤その他(貴協会独自で工夫した資料等)